

第3学年 研究授業実践報告

令和8年度 研究主題

自ら学習を調整し、学び進める児童の育成
～「なぜ?」「どうして?」を引き出し、問いをつなぐ学びのデザイン～



3年生の目指す児童像

考えを深めるための問いを設定できる児童

本単元では…

①ファンタジー作品を楽しみながら読む児童 ②問いを精査することのできる児童

国語科

『まいごのかぎ』学びのデザイン

「ひろがるQでファンタジーを楽しもう」

時	従来の単元指導計画
1	学習材を読み、初発の感想を交流する。 学習課題を設定し、学習計画を立てる。
2	場所や出来事に気を付けて読み、 場面分けをする。
3	各場面での出来事や、そのときの 「りいこ」の気持ちをノートにまとめる。
4	
5	
6	物語の最初と最後で「りいこ」にどのような 変化があったのか考える。
7	「りいこ」の言動を表す言葉に着目し、不思議 な出来事に対する考えや気持ちをまとめる。
8	好きな場面とその理由をノートに書く。
9	好きな場面を友達と伝え合い、 自分の考えとの共通点や相違点を話し合う。
10	学習を振り返り、身に付いた力を確認する。 読書への意欲をもつ。

時	「問い」を中心とした単元デザイン
1	学習材を読み、初発の感想を交流する中 で、疑問に思ったことを出し合う。 「ファンタジー」について知る。
2	「とらえるQ」「見つけるQ」「ひろがるQ」 について知る。 学級全体の「疑問に思ったこと(=「問い」)」 の分類表から、「問い」を3つに分ける。
3★	問いの分け方をグループや全体で共有する。 読み深めたい「ひろがるQ」を選ぶ。
4	選んだ「ひろがるQ」のヒントを文中から読み 取り、答えを考える。
5	『「ひろがるQ」でファンタジーを楽しもう』 「ひろがるQ」の解決・全体交流を行う。 ・中心人物の内面的変化と対人物 ・ファンタジーの構成 「現実」→「非現実」 →「現実」 ・中心人物の人物像 ・ぼう線ダッシュ
6	
7	
8	「ひろがるQ」の解決を経て、 心に残った場面について文章にまとめる。
9	心に残った場面について、 グループ・全体で共有する。
10	単元のまとめを行う。 何を学んだか／どんな力がついたか／今後 生かせそうなこと →全体で共有する。

(★は研究授業本時)

✓ 成果

- ・読み深めたい「ひろがるQ」を自分で選ぶことで、主体的に学習に取り組む姿が見られた。
- ・選んだ「ひろがるQ」について全体交流する中でQとQの繋がりを明らかにすることができ、ファンタジーを楽しみながら読み進めることができた。
- ・3つのQの分類で、「ひろがるQ」の一般化を図ることができた。次単元では「ひろがるQ」づくりを中核に据え、目指す児童像の「考え深めるための問い」づくりによりまた一歩近づく指導を行う。

! 課題

- ・児童間で3つのQの捉え方に差が出てしまった。最初に複数のQを実際に解決する過程を踏めば、実感を伴った3つのQの整理に繋がったのではないかな。
- ・自ら学習を調整し、学びすすめる力を付けていくためには、ただ意見交流をするのみではなく、“練り合い”のできる話し合い方を指導する必要がある。
- ・一単位時間ごとの板書の難しさ。QとQは繋がるため、どのように児童の考えと本文、指導事項を板書で繋いでいくのか、柔軟な板書計画が必要である。